共催講演Ⅱ　神経・循環器理学療法における多施設共同観察研究と臨床応用

講師

久保 宏紀

甲南女子大学

司会：宮田　一弘（茨城県立医療大学）

要旨

臨床現場は、臨床に根ざしたエビデンス創出の最前線であり、そこで得られた知見は多様な現場に汎化され実装されることが求められる。単施設研究は、特定の診療体制や環境下で詳細な観察や介入を行える点に強みがある一方、症例背景が限定されるため、知見の一般化には一定の制約が生じる。この課題に対し多施設共同研究は、多様な症例を広く収集することで外的妥当性の高いエビデンスを創出でき、単施設研究を補完する役割を担う。本講演では、エビデンス創出と臨床応用の観点から両研究の特徴と意義を整理し、学会主導で進行中の多施設共同研究を紹介しながら、その展望について述べる。

略歴

2010 年　伊丹恒生脳神経外科病院　リハビリテーション部
2015 年　伊丹恒生脳神経外科病院　リハビリテーション部　副主任
2016 年　神戸学院大学　総合リハビリテーション学研究科　博士前期課程修了
2018 年　伊丹恒生脳神経外科病院　リハビリテーション部　主任
2020 年　神戸学院大学　総合リハビリテーション学研究科　博士後期課程修了
2022 年　関西医科大学　客員研究員
2023 年　甲南女子大学　看護リハビリテーション学部　理学療法学科　助教
<学会活動>
一般社団法人日本神経理学療法学会　研究推進委員会、戦略的課題解決委員会（歩行障害班）、兵庫地方会
一般社団法人兵庫県理学療法士会　学会運営部部長、「理学療法兵庫」査読委員

業績

1. Kubo H, Miyata K, Tamura S, et al. External Validation and Update of Minimal Important Change in the 6-Minute Walk Test in Hospitalized Patients With Subacute Stroke. Arch Phys Med Rehabil. 2025;106(7):1039-1045.
2. Kubo H, Kanai M, Nozoe M, et al. Association of Malnutrition With Physical Activity Intensity in Patients With Subacute Stroke. Arch Phys Med Rehabil. 2023;104(10):1652-1660.
3. Kubo H, Kanai M, Nozoe M, et al. Daily steps are associated with walking ability in hospitalized patients with sub-acute stroke. Sci Rep. 2022;12(1):12217.

その他、共著論文約 60 編（国際論文，和論文を含む）

Research map：https://researchmap.jp/hiro.k16862